

ISO/TC94/SC14ジュネーブ会議報告

帝国繊維株式会社 繊維営業部 園部 修

ISO/TC94 個人安全—個人用保護具(Personal safety—Personal protective equipment) /SC14 消防隊員用個人防護装備 (Firefighters' personal equipment) /WG's (ワーキンググループ) 会議

日 時：10月22日(月)～25日(木)

場 所：ジュネーブ(スイス) デュポン会議場

参加国：イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、スイス、アメリカ、ドイツ、カナダ、ベルギー、オランダ、オーストリア、日本 計11か国

日 本：株式会社イマジョー：川口氏、一般財団法人カケンテストセンター：辻氏、小林防火服株式会社：小林氏、帝人株式会社：鈴木氏、デュポン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社：池田氏、株式会社廣瀬商会：藤波氏、帝国繊維株式会社：園部、通訳 計8名

- 議 題：
- ・SUCAM (個人防護服の選択、使用、メンテ等)
 - ・個人防護装備のクリーニング及びメンテナンス
 - ・林野火災用個人防護装備 (ヘルメット、防火衣、手袋、靴等)
 - ・ステーションユニフォーム (活動服、救急服等)
 - ・現在進行中の検討規格の進捗他

月日	曜日	AM	PM
10/22	月	WG1<一般要求事項>： ・SUCAM	WG1<一般要求事項>： ・個人防護装備のクリーニング、メンテナンス
10/23	火	WG3<原野火災>： ・ISO 15384 原野火災用防護服	WG3<原野火災>： ・ISO 15384 原野火災用防護服
10/24	水	WG2<建物火災>： ・ステーションユニフォーム	WG2<建物火災>： ・ステーションユニフォーム
10/25	木	WG1<一般要求事項> WG2<建物火災> ・会議総括と各種報告	



会議会場のデュボン社



会議風景

●WG-1

(1) SUCAM (個人用保護具の選択・使用・手入れ・メンテナンスの手引き) について 議長：デイブ・マッシューズ氏 (イギリス)

ISO TR 21808原案を題名からアネックスまでの各項目を審議。スコープでは、東京会議で日本が提案した水難救助を適用範囲から除外することが了解された。また、全体として服装に特化した内容であるが、各消防活動で使用するヘルメットや服装、靴までの個人装備品全体を含む内容となる。リスクアセスメントについて、ドイツより既に運用されているガイドラインのプレゼンが行われ、写真入りの具体的なものであったためアネックスに抜粋し転記されることになった。マネキンテストについて、日本より不安定な試験でありNOTEとするよう提案、次回オランダ会議で訂正案を再審議する。コンパチビリティについてはshallをshouldへ変更し柔軟なものとなった。クリーニングは当日後審議するNP23616とリンクさせるものとし、メンテナンスではクリーニングする時期を明確にするべきとの意見があった。11月末を目途として訂正案を作成し1月までにアップロード、コメントを集め6月の次回会議で審議される予定。

(2) クリーニング・メンテナンス・リペア

議長：リチャード・ボールハイマー氏 (イギリス)

今回がキックオフミーティングとなり、冒頭、クリーニング・メンテナンス・リペアに関する各国現状が説明され、アメリカ、オーストラリア、オランダ、ドイツ他で規格化または検討中であるとの説明があった。規格化の目的は消防士の健康と病気予防で、癌と消防士の関係や薬品、熱による消防士への曝露について説明があった。また、危険物質の消防士への曝露について、25人の被験者を使った実験結果の解説があり、呼吸や皮膚から被験者に侵入した危険物質が8時間後に体外に排出されるとの説明があり、最も大きな侵入経路は呼吸によるものであった。また、オーストラリアの密閉された火災現場では約500種の化学物質が検出されたとの報告もあった。その後、クリーニング・メンテナンスの規格案が提示され、これを基に今後審議される予定。規格案の内容は既存のNFPA規格をモデファイしたもので、クリーニングや修理方法について具体的に説明されており、SUCAM同様にヘルメットから靴、呼吸器までの個人装備品が該当し、今後3年でのISO化を目標とする。次回会議は2019年1月14日にSIOEN社 (ベルギー) にてPG会議を開催予定。

●WG-3 原野火災用消防隊員個人防護装備

議長：リック・スワン氏（アメリカ）

議長より、これまで議論されてきたISO 15384（原野火災用防護服）が2018年7月に出版されたと報告があった。東京会議で新規に提案されたISO 16073（原野火災用個人防護装備）のパート1～9まで、回覧済のCD案に対する投票とコメントが寄せられた。本会議では各コメントについて協議が進められた。各パートとリーダーについては以下のとおり。

ISO/NP 16073-1：一般要求事項 アーサー・ティンドル氏（オーストラリア）

ISO/NP 16073-2：コンパチビリティ アーサー・ティンドル氏（オーストラリア）

ISO/NP 16073-3：防護服 ヴェラ・グラス氏（ベルギー）

ISO/NP 16073-4：手袋 カレブ・ヤップ氏（ニュージーランド）

ISO/NP 16073-5：ヘルメット カレブ・ヤップ氏（ニュージーランド）

ISO/NP 16073-6：靴 トーマス・マネック氏（オーストリア）

ISO/NP 16073-7：顔面・視覚保護具 スティーヴン・コラード氏（アメリカ）

ISO/NP 16073-8：聴覚保護具 トーマス・マネック氏（オーストリア）

ISO/NP 16073-9：ファイアフード エリック・ヴァン・ウェリー氏（スイス）

①Part 1：一般要求事項

特筆事項無し。

②Part 2：コンパチビリティ

特筆事項無し。

③Part 3：防護服

基本的に、ISO 15384に内容を合わせることにし、そうでない項目について議論し、要否を決めていくという方針のもとで議論が進められた。ピクトグラムについて提示があり、採用することとなった。Abrasionが再現性に問題がある事について取り上げられ、SC14よりSC13に対してこの問題についてのPGを立ち上げるよう、要請することとなった。

④Part 4：手袋

原案ではカットレジスタンスで7N以上となっていたが、それに対して10N以上とするべきというコメントもあった。日本の小林リーダーより「むやみにレベルを高くすることは手先の器用さを犠牲にすることから望ましくなく、ISO 11999-4に整合させるべきではないか」と提案。その結果5N、10NというISO 11999-4のレベルに整合させることとなった。

⑤Part 5：ヘルメット

特筆事項無し。

⑥Part 6：靴

特筆事項無し。

⑦Part 7：顔面・視覚保護具

特筆事項無し。

⑧Part 8：聴覚保護具

特記事項無し。

⑨Part 9：ファイアフード

東京会議で、ISO 11999-9の更新で議論するとされていた、微粒子からの防護について、当該規格にて内容が織り込まれていた。ただし、スコープの中に、オプションとしてこの防護性能を謳うことを記載するということであった。日本から洗濯収縮が5%と厳しい規格値になっているが問題ないかを質問したが、コメントとして意見が出ていないため、現時点ではこのままとするとのことであったため、次回のCD2投票で必要であればコメントをする。

スケジュールについては、2020年の7月までに出版することが期限であり、Part 6：靴とPart 9：ファイアフード以外の各PartはDIS投票にかけることとなった。靴とファイアフードについては修正すべき内容が多いという理由でCD2投票にかけることとなった。今回議論された各コメントの内容を反映させた修正規格案を各リーダーが作成、8週間でコメントを集め、2019年のオランダ会議で議論する。

●WG-2

ステーションユニフォーム

議長：マーク・グリブル氏（オーストラリア）

CD21942-2の投票結果とそれに対する各国から提出されたコメント集を検討。日本より、規格該当商品の具体的な提示、CD案に要求が無い制電性の追加、耐光堅牢度と快適性能（透湿抵抗、乾熱抵抗）の要求性能の引下げを提案したところ、逆に課題として日本から該当商品、規格数値を提案することとなった（制電性、耐光堅牢度、耐摩耗性はオプションへ）。UV抵抗については日本や複数の国からの削除の要求が受容された。また、快適性能について、要求数値を決めたオーストラリアと日本が事前試験した結果の隔たりが大きく、試験試料の種類、測定方法が異なる可能性もあるため、両国で試料を出し合い相互試験することが決定。年内を目途に試験実施し結果を関係者と共有する。この試験結果を考慮し、オプションとなった制電性、耐光堅牢度、耐摩耗性の要求性能含め、次回オランダ会議までに回覧されるDIS原案で審議される予定。

●WG-1

ワーキンググループ会議

議長：デイブ・マシューズ氏（イギリス）

東京会議の議事録と今回のジュネーブ会議での各審議事項を確認。SUCAMタイムスケジュールに関して、11月末までに池田氏が規格案を作成し1月にCIB投票を実施し合意されればTR原案として審議が継続される予定。

●WG-2

ワーキンググループ会議

議長：デイブ・マシューズ氏（イギリス）

ISO 11999-10空気呼吸器の規格作成の進捗状況の説明があり、極低温下での結露の影響等の説明があった。ISO 11999-9ファイアフードは規格内容のアップデートに向け規格案を作成、CIB投票となる見込み。その他前述の各審議事項の確認を行い、次回会議は2019年6月17日～21日にオランダにて開催される。